

第432号 8月号 2020.8.20

岐阜県

商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL：058-277-1107

歩道がテラス席に！ 路上利用の占用許可緩和

◆美濃俵町商店街振興組合・大垣市商店街振興組合連合会

6月から、飲食店をはじめとする店舗がテイクアウトで販売したり、テラス席を設置したりする際に、路上利用の占用許可が取得しやすくなりました。これを受けて、岐阜県内の商店街でも新しいスタイルの販売方法が見られるようになってきました。県内でもいち早く許可を取得した美濃市と大垣市の商店街を訪れました。

■美濃市の事例

美濃市では「うだつの上がる町並み」の目の字通り（1番町通り、2番町通り）が許可の対象になっています。多くの来街者が見込まれる金曜・土曜・日曜・祝日に実施しています。各個店の店先1mが使用できるスペースです。

伺ったのは7月24日、スポーツの日でした。今年は前日の木曜日にも祝日になりましたので、土曜・日曜とを合わせると4連休です。緊急事態宣言発令時には激減した観光客も少しずつ戻りはじめ、近隣の駐車場も車でいっぱいでした。テイクアウトやテラス営業のお店もたくさん並んでいるのではないかと—と思いきや、当日、店舗前に食事席を設置したり、路上ワゴン販売を実施したりしていたのはわずか数店舗でした。

原因は、天候です。当日の天気はくもりで、今にも崩れそうな空模様でした。美濃俵町商店街振興組合の理事長、日比野さんはこう言います。

「こちらの商店街にはアーケードがないため、

雨が降ってきたら路上の食事席やワゴン等を片づけなければいけません。そのため、今日のような天気の日、各店舗とも路上に席を設置することを避ける傾向にあります。」

それでも、一部の店舗では実施していました。ある衣料品店では、レトロな乳母車をワゴンの代わりにして、はぎれを置いていました。通りかかった人が興味深そうにのぞき込んでいたのが印象的でした。飲食店の食事席とは異なり、乳母車は出し入れが容易ですので、気軽に設置できる利点があります。



▲乳母車を利用したワゴン

「美濃市では約40店舗が許可を取得しました。飲食店だけでなく、物販店も対象です。梅雨が長引いて、現在のところ本施策の力はまだ発揮できていませんが、梅雨明け後には本格的にスタートします。」

梅雨明け後の目の字通りでは、観光客の皆さんとお店の方とのやり取りが路上でも繰り広げられ、街全体に活気が生まれそうです。

■大垣市の事例

大垣市では「まちなかテラス」という名称で、駅通りをはじめ市道の歩道や駅周辺の広場が許可の対象になっています。各個店が大垣市に申請し、ステッカーを受け取ることで路上の使用が可能になります。歩行者の通路を確保することが条件です。

伺ったのは8月2日です。大垣市商店街振興組合連合会では毎月第一日曜日に「元気ハツラツ市」を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で今年度は4月から7月まで開催を見合わせていました。今回、歩行者天国やステージイベントを実施しない「ぷちハツラツ市」として復活しました。

ステージイベントがないため、普段の元気ハツラツ市に比べてにぎやかさはありませんでし

たが、それでも多くの方がチラシを手にアーケード街を回っていました。キーワードラリーに参加するため、チェックポイントを巡っているのです。



▲歩道に設けた休憩席とテイクアウト販売

歩道には休憩席やテイクアウト販売のブースを設けていました。通常の「元気ハツラツ市」でも同様ですが、本施策ではこの様子がイベント時に限らず実施されることとなります。アーケード下でもあり、天候に左右されない点で、各店舗の負担は小さく感じました。

「ウィズコロナ」時代のイベントの在り方 サンデービルディングマーケット再開

◆主催：サンデービルディングマーケット実行委員会・岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会

7月19日、岐阜市柳ヶ瀬商店街一帯で第68回サンデービルディングマーケット（以下「サンビル」）を開催しました。2014年から毎月第三日曜日に開催してきたサンビルですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、3月から5月まで中止していました。昨年、規模を縮小して再開し、今回が再開第2回目です。

■再開したサンビル

6月にサンビルを再開するにあたって、最も配慮したのが感染拡大の防止でした。5月25日に緊急事態宣言は解除されたとはいえ、感染症そのものが根絶したわけではありません。大

型のイベントを実施した場合、感染を拡大させるおそれがあるため、十分な対策が必要になります。

サンビル実行委員会では行政と協議をし、出店ジャンルを物販に限定し、出店者数も半分にしました。サンビルの名物は飲食関係の出店ですが、①来場者が会場で飲食することによって滞在時間が長くなってしまうこと、②飲食の際にマスクを外すことになること、③行列が生じた場合にソーシャルディスタンスを確保できないことを考慮し、出店を見合わせてもらいました。休憩スペースも設置しないで、滞在時間の短縮を図りました。



▲にぎわうサンビル会場(7月)

そのほか、大々的なPRをしない、会場の出入りにアルコール消毒液を設置する、会場マップは掲示にとどめて配布しない、などの対策を実施したうえで開催しました。それでも、開催を待ち侘びたお客さまが大勢訪れたそうです。

■事前の予防と事後の対処

6月の結果を受けて、7月のサンビルを開催しました。今回も飲食関係の出店はなく、物販のみ約100店舗での開催になりました。出店スペースは、中止前は隣接して設置していましたが、現在は「ひとつおき」に指定することによって間隔を確保しています。各出店者はアルコール消毒液を持参し、机の上に設置していました。

また、出入口には消毒液とともに「岐阜市withコロナあんしん追跡サービス」のQRコードを掲出していました。本サービスは、来

場者がスマートフォンでQRコードを読み込み、メールアドレスを登録しておく、同一会場で感染者が発生した場合にメールが届くというものです。感染を発生させないための工夫と、万一のときのための備えとを実施していました。



▲出入口に設置の消毒液とQRコード

6月と異なっていたのは、物販のジャンルに「野菜」が含まれたことです。生野菜を会場で食べるような人はいないため、感染を拡大する要因はないと判断し、一部要件を緩和した形になりました。

「ウィズコロナ」時代の商店街イベントは、どこまで実施することが可能で、どこからが不可能か、明確な基準がありません。今回のサンビルのように、前回の状況をフィードバックしながら小さく軌道修正するなど、試行錯誤するしかないようです。

次回のサンビルは8月16日の予定です。

商店街のリーダーに聞く vol.5 感染症との苦闘の中で

◆土岐市商店街連合会

岐阜県内のがんばっている商店街連合会の代表者にお話を伺うシリーズ企画。第5回は、土岐市商店街連合会（土岐市商連）の和田武雄会

長です。土岐市商連は傘下に2組合、総組合員数は約30店です。

■新型コロナウイルス感染症の影響

和田さんが開口一番におっしゃったのは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う売上減少の悩みでした。和田さんの奥さまはビジネス通訳を務めていますが、2月以降の契約のほとんどがキャンセルになったそうです。

「妻は年間200日以上、海外を飛び回っていましたが、今年はずっと在宅です。本人は『学生時代も含めて、こんなに家にいたのは初めて』と笑いますが、売上の8割が減少し、正直苦しいですね。」

売上高の減少は、商店街全体の問題でもあります。商店街の個店も来店者が減少しているため、多くの店舗で営業時間を短縮したり、臨時に休業したりしています。お話を伺うために訪れた商店街のコミュニティスペース「はいつて小屋」も、3月から6月まで休業し、7月から時間を短縮して再開しています。商店街では4月に1店舗、5月に1店舗が閉店しました。

「はっきりと閉店の理由を聞いたわけではありませんが、売上減少の影響は大きいと思います。仮に賃貸物件で商売をしている場合、毎月、家賃が固定費としてかかってきます。いったん賃貸契約を解除して、収束後に賃貸契約を結び直すのも、選択肢の一つです。」

来街者を増やすためのイベント開催にも、なかなか踏み込めないでいます。土岐市商連では毎秋、「ダンスフェスティバルTKC」を開催しています。土岐市内外で活動しているキッズダンスチームを招いて、パフォーマンスを発表してもらっています。飲食ブースも出店し、大人から子どもまで楽しめるイベントになっていることは、本紙昨年11月号でご紹介したとおりです。

「TKCは子どもが中心のイベントです。開催して万が一、感染源になった場合、商店街だけでなく、子どもたちにも批判が向けられる恐

れがあります。それだけはなんとしても避けなければいけません。」

人が集まると、どうしても感染リスクは高まります。来街者を増やしたいが、感染リスクを高めるわけにはいかない——。和田さんのマスクの下には、苦悶の表情が隠れているように見えました。



▲ダンスフェスティバルTKC

■土岐市商連の今後

和田さんが土岐市商連の会長に就任したのは3年前です。前会長が店舗を閉店した際、所有するビルの1室をコミュニティスペース「はいつて小屋」として土岐市に提供していた和田さんに白羽の矢が立ったのです。

土岐市商連では、約30台の自動車を止めるスペースを持つ来街者用の駐車場（ゆのみの里広場）を管理しています（土地所有者は市）。商店街利用の方ならば2時間無料で止めることができます。多くの商店街で駐車場がないために機会を損失しているという指摘がある中、来街者を増やす一助になっている一方で、管理の苦勞もあります。

「土岐市駅に近いので、どうしても無断駐車される方がいます。以前、1週間以上、止まっている車があったので、警察に問い合わせたところ、海外旅行に行っていたとか。有料駐車場にして利用者に駐車券を渡す方法も検討しましたが、市のルールがネックになり、断念しまし

た。最終的には利用者さんのモラルに任せるしかありません。」

和田さんには、新型コロナウイルス感染症の収束後に実施したいことがあると言います。土岐市の地場産業である陶芸と観光とを結びつけたイベントです。土岐市に宿泊した観光客に窯焼きなどの陶芸を体験してもらい、そこに商店街もからめるというプランです。

長期的には、商店街の空き店舗をなくす施策も実施したいとのことでした。現在は店舗の所有者の意向と出店希望者の希望とが合致しないことが多く、なかなか実現することがないそう

です。

「駅前にやる気のある人が集まることによって、街にも活気が出てくると考えます。高山市の『古い町並み』は訪れるだけでも楽しませてくれます。こういったことは商店街だけでは実現することは難しいです。行政とも街づくりのビジョンを共有して、進めていきたいですね。」

新型コロナウイルス感染症の影響にもがきながらも、和田さんは思いを新たにしていました。

【取材・記事 中小企業診断士 山田圭介】

◆ 新型コロナウイルス感染症に係る緊急対策について

「第2波非常事態」に対する緊急対策

1. 「第2波非常事態」

●「第2波」が到来

- ・7月の感染増加は、4月を上回るスピード。
- ・「新規感染者数」、「感染経路不明者数」、「入院患者数」が基準超過。
- ・「PCR検査陽性率」急増。

●「愛知県、特に名古屋」の酒類を伴う飲食店で感染多発

- ・本県感染者の約6割が、愛知県由来。
- ・愛知県由来のうち、繁華街のクラブ等、酒類を伴う飲食店での感染者が、約7割超。

●「若者」の感染急増、「学校クラスター」の相次ぐ発生

- ・20代以下の感染者は、直近1週間では全感染者の5割超に急増。
- ・全国初となった高校クラスター。続いて大学クラスターも発生。



●若者から高齢者への感染拡大の懸念

- ・高齢者に拡大すれば、急速に医療機関を圧迫。(重篤者数の増大リスク)
- ・在住外国人への感染拡大も要警戒。

●今後、人の動きの活発化

- ・8月1日から本格的な「夏休み」
- ・帰省ラッシュの「お盆休み」
- ・「Go To キャンペーン」

2. 緊急対策(「オール岐阜」での取り組み)

(1) 県民の皆様へ

●愛知県、特に名古屋での酒類を伴う飲食の回避

(感染状況、防止対策について愛知県、名古屋市と積極的に情報共有)

●学校夏休み、お盆休み対策の徹底

- ・児童生徒は、健康チェックカードによる毎日の体調管理。
- ・保護者は、児童生徒の感染防止対策の確認。
- ・教員は、自らの感染防止対策の遵守と体調不良時の報告。
- ・大学生は、特に、締め切った場所及び多人数での懇親会やパーティー、カラオケを自粛。
- ・学校内の「衛生管理者」による校内コロナ衛生管理の徹底。
- ・県をまたぐ外出、感染拡大地域、特に愛知県との往来は慎重に。

●感染防止対策の基本の徹底

- ・「人との距離確保」「マスク着用」「手洗い」。
- ・3密の場(「密閉」「密集」「密接」)の回避。
- ・家族以外の集団での会食の回避。

- ・毎日、体調を自己チェック、体調異常の場合は、外出ストップ。
- ・県の「感染警戒QRシステム」と政府の「接触アプリ(COCoA)」の活用。

○行動指針、ガイドラインの遵守徹底

- ・感染防止対策を徹底していない店舗において、感染者が発生した場合には、感染症法等に基づく店名公表、立ち入り検査。

- ・クラスターが発生した店舗には、特措法に基づく個別の休業要請及び業界指導。
- ・「コロナ対策実行中！」ステッカーの掲示徹底と掲示店舗の利用推奨（県ホームページ、雑誌、サイトへの掲載）。
- ・「Go Toキャンペーン」などに備え、特に観光、宿泊施設の感染防止対策を再点検。
- ・在宅勤務(テレワーク)、時差出勤を推進。

◆ 各事業者の皆様へ

岐阜県では、県独自の「コロナ社会を生き抜く行動指針」や業界ごとのガイドラインに沿った感染防止対策をオール岐阜で進めております。

各事業所、店舗が感染防止対策を実施していることをステッカーにより利用客にわかりやすくPRすることで、次の効果を期待しています。

- ◆事業者は、感染防止の意識が高まります
- ◆利用者は、安心して利用できます

1 対象事業者

小売業、サービス業などすべての事業者

2 手続方法

申込書と宣言書を事業所・店舗が所在する市町村窓口へ提出してください。

3 ステッカー配布

県または市町村から郵送等により配布

これまでにクラスターが発生するなど感染リスクが高い業種（接待を伴う飲食店、カラオケボックス、ライブハウス、スポーツジムなど）は、

このステッカーが目印です



マニュアルの提出をもって今回の宣言申込としますので、申込みは不要です。

※市町村における感染防止独自制度を利用されている場合は、申込不要の場合もありますので、詳しくは市町村へお問い合わせください。

■事務局(ゆ)のヒトリゴト

皆さん、こんにちは。

お久しぶりの事務局(ゆ)でございます。

産休・育休をいただきおまして、昨年11月より復職いたしました。皆様のお役に立てるよう頑張りますので、今後もよろしくお願い申し上げます。

久々の業務を思い出しながら、皆様にも久々に会いできると思っていた矢先の新型コロナウイル

ス感染症拡大。

県商連といたしましても、コロナに対する給付金や補助金の情報提供などを行っております。ご不明な点などございましたら、ご連絡いただけますと幸いです。

新型コロナウイルス感染症が終息し、皆様と心からの笑顔でお会いできる日が早く来ることを願います。

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。